

会 議 録

- 会議の名称 : 西東京市地域情報化計画策定審議会(第10回)
- 開催日時 : 平成14年9月18日(水)午前9時30分から11時30分まで
- 開催場所 : 西東京市役所田無庁舎5階501号会議室
- 出席者 : (委員) 鶴会長、岡田委員、斎藤委員、土屋委員、花澤委員
欠席 : 小館委員、富永委員、矢内委員
(事務局) 坂井企画部長、櫻井企画課主査、櫻井情報推進課長、大和田情報推進課係長、渡部情報推進課主査
- 議題 : 「西東京市地域情報化基本計画の基本的考え方」について
市民ワークショップについて
シンポジウムについて
- 会議資料 : (添付資料参照)
1. 西東京市地域情報化計画策定審議会第10回会議次第
西東京市地域情報化基本計画の基本的考え方(案)
地域情報化計画策定のための市民ワークショップ・事業者ヒアリング実施について(案)
シンポジウムの開催について(案)
庁内ヒアリングのまとめ
- 会議内容 : 発言者の発言内容ごと要点記録

開催のあいさつ

- 櫻井) 本日第10回目の情報化策定審査会を開催する。
本日は、小館委員、富永委員、矢内委員が欠席である。
それでは、本日の議題に入りたい。まず、西東京市地域情報化基本計画の基本的考え方について、前回の審議会で骨子ということで審議頂いた内容を踏まえ、本日は西東京市地域情報化基本計画の基本的考え方の案ということで資料として配布している。この基本的考え方の概要版を10月1日の市報に掲載し、同時にワークショップの参加者募集を行うというような形で進めたいと考えている。
基本的考え方の3頁目の「2.地域情報化の意義・目的」に新市建設計画ということで記載されているが、現在西東京市では市の基本構想、基本計画策定を行っているので、暫定的に入っていると理解してほしい。
今後、10月下旬予定のワークショップ、事業者のヒアリング、11月16日予定しているシンポジウムを実施し、計画の骨子に肉付けをしたいと考えている。本日は基本計画の基本的考え方について議論頂きたい。
- 会長) **地域情報化**基本計画の基本的考え方については各委員に事前にメールして頂いたものか。本日欠席の委員からは意見等もらっていただければ、後ほど披露して

頂きたい。

事務局) それでは、まず本日配布した資料について説明したい。

「1.西東京市地域情報化基本計画の基本的考え方」について、今までの議論を踏まえ、再度構成した。位置付けとしては、今後、住民から意見をもらう際に題材が必要であると考え、住民に対して考え方として理念を示し、住民、事業者の方との議論の題材にしていく予定である。

1項目、「1.地域情報化計画策定の背景」として、IT革命は、基本的に“誰も”、“気軽に”、“参加する、コミュニケーションする”という3つのキーワードで位置付けている。このキーワードについてはここで議論して頂きたい。

2頁目では、「e-Japanの部分とは？」は割愛し、中段の「人と人が出会い・対話することが基本」では1行目の、“人と人のコミュニケーションが基本”ということであり、あくまでもITはツールとして捉えている。また「地域情報化計画の必要性」においては、最終行でITを活用して“人と人が出会い・対話する”ことの重要性を前面に押し出し取り組むということをコンセプトとした。

3頁目では、現在はまだ総合計画がない状況であり、今後総合計画ができたとき、こちらの理念と整合性を図る形で扱いたい。また、今現在いくつか作成されている他の部署の計画と平行して整合性を図っていきたい。

4頁目では、地域情報化推進の考え方として3つのテーマ「暮らしの情報化」、「地域経済の情報化」、「行政の情報化」を掲げている。先に議論した3つのテーマをそのままスライドさせ、説明を加えた。

5頁目では、前回の会合をうけて、個人情報保護とセキュリティ対策、デジタルデバイドを留意点という扱いから基本スタンスという扱いにした。さらに、行革大綱との連携を図るということで、行財政改革を進めるためのツールとしてITを位置付けている。

6頁目では、「情報通信基盤の考え方」として4つのテーマを設けている。特に三段目、「多様なメディアの活用」ということで、多様なメディアがある西東京市の特徴をいかしていきたい。

7頁目では、「6.推進体制とアクションの方向性」ということで、市、住民、事業者とが三位一体となって、お互いに役割分担を行い、地域情報化を進めていきたいと考えている。さらに、広域的連携ということで住民の生活圏が西東京市を越えていることもあるので、その部分を意識した地域情報化を検討したい。

つぎに、地域情報化計画策定のための市民ワークショップ・事業者ヒアリング実施について(案)という資料の説明をする。前回説明した住民・事業者のワークショップについて、若干の軌道修正を行ったのでもう一度説明し、議論頂きたい。

1.(1)で先般行った市民実態調査を補足するという位置付けで、直接住民の方から具体的なニーズ、アイデアを聞き、それに基づいた基礎データを作成し、基本的考え方に今後肉付けし、今年度の中間答申に反映させたいと考えている。

1.(2)では、事業者の情報化に関するニーズを把握する。具体的には事業者にとっての情報化に関する課題は何か、どのような地域情報化施策が必要か、地域情報化において市内の事業者がどのような役割を担うのか、直接ヒアリングをして意見を聴取し、中間答申に反映したい。

実施の概要ですが、前は住民対象が5回ということでしたが、庁内で検討した結果、住民対象は2回とし、会場については市の北側と西側で1箇所ずつとする。内容については2時間程度、人数は15人ということで、対象については先般の調査が小中学生と18歳以上ということで高校生に当たる年齢が抜けているので今回は16歳以上対象ということにしたい。形態としてはフリーディスカッションという形態をとるが、進め方の案としては、先の基本的考え方、実態調査報告を説明し、住民の方からご要望、お考えを聞き取りたいと考えている。そこで議論をし、結論を出すようなことは考えていない。事業者ヒアリングについても若干軌道修正した。当初は事業者の直接参加も考えていたが、具体的な取り組みが提示できない段階で個別の事業者から意見を伺っても実りある形にならないのではないかとということで、それらを束ねている団体を中心に実情を先に伺う方法へ軌道修正した。回数は8回とし、市内の大企業の代表の方、中小企業は商工会等を通じて広域団体等に事務所の実情等をヒアリングしたい。農業に関しては農協を通じ、医療に関しては医師会、福祉、教育、子育てについてはそれらを束ねる団体があればそこで、なければどこか代表的なところをお願いして実情を確認したい。

NPOについても市内で活動しているNPOとコンタクトを取り実情を確認したい。内容についてはどういった問題点があるか等、こちらからある程度テーマを絞ってヒアリングという形で意見を聴取したい。それに基づいて先ほどの基本的考え方の中に理念とか具体的事業等を加えたい。

ワークショップとヒアリングにおいては、審議会が内容をまとめたということで説明したいと考えている。庁内の他の審議会等でも審議会主催というケースが多いということが判明したので、本日議論で承認頂きたい。審議会主催ということで開催する場合、委員の方にも出席頂きたいと思っているが、事業者に関しては矢内氏に出席頂くということで調整している。市民ワークショップの2回についても委員の方に出席をお願いしたいが、これについても事業者等の関係、その後のシンポジウムとの関係もあるので事務局側としては矢内氏をお願いしたいと思っている。

シンポジウムの開催については、前は三部構成ということであったが若干修正して、基調講演とパネルディスカッションという二部構成にした。基調

講演については学識経験者の方にIT社会、ITとまちづくりに関しての講演を行ってもらい、その中に基本的考え方の西東京市の取り組み理念を盛り込みたい。また、非常に興味深い内容となっている市民実態調査の概要についても事務局より報告し、それを題材に最終的な基調講演を行い、そのテーマをもとに休憩をはさみパネルディスカッションを行う。パネリストとして学識経験者には審議会の委員の方から、市内在住者、事業者・在勤者についてはワークショップあるいは事業者ヒアリングを通じて参加依頼をしたいと考えている。大学については市内に武蔵野女子大があることもあり、矢内氏の協力を得て参加依頼をしたい。NPOについてはそれを束ねている所管を通じて参加依頼をしたい。行政側としては市長の参加を考えている。モデレーターは日本総研にお願いしたい。

本日審議頂きたいのは基調講演で基本的考え方をメインとした講演を審議会の委員の方をお願いしたい。この点についても矢内氏をお願いしたいと考えている。

- 会長) 基本計画の基本的考え方について議論したい。昨年作成したA3版資料の考え方がベースになっていると思うので参考にしながら項目別に審議したい。まず、全体の組み立て方について何か意見あるか。
- 花澤) これをベースに市民の方と議論するという事は確かにコンセプトの議論をするということですが、議論をするイメージがわからないと思う。どこかに具体的なサービスの例やイメージを入れないと、どういう分野の希望を話せばよいかははっきりしない。たたき台にはならないのではないかと。たとえば、3の後にイメージ図を入れるとか、あくまで文章としてということであるならば良いか、議論の種ということであればやや不足しているのではないかと。
- 会長) 審議会として建前的な考え方をだす文章としては良いが、ワークショップ、ヒアリング、シンポジウムを行う際には、ある程度具体的な説明ができるものがあつたほうが良い。
- 岡田) 図では西東京市の基本理念を実現するためにITが有効であるという形に表現されているが、この資料だとITの背景から始まってしまい、西東京市がどの方向に進もうとしているか中程までわからない。議論するためには西東京市がどの方向に進むべきかということを書いて、その目的達成のためにITが有効である、としたほうが良い。特に1頁の「IT革命とは」などは嫌悪感を持つ人がいるのではないかと。
- 会長) 西東京市の地域性をある程度明確に打ち出し、国のIT政策やe-Japan計画は参考的に後ろの方へ持っていくということだと思う。今の意見だと2.を前にだすということでしょうか。
- 事務局) 2頁の中段のところ、「人と人とのコミュニケーション」を西東京市としては重視しているので、前面に出したい。
- 会長) 前面に出すとしたら2.のところから3頁あたりがうまく前面に出てくると良

い。西東京市として、こういうことをやるというのがうまく表現できると思う。他に全体構成の面で何か意見あるか。

土屋) 本日配布された資料はどこかに使われているものか。

事務局) 審議会の検討資料ということで公開している。

土屋) 図がわかりやすいので、使えるのならば、前回作成した全体図をどこかにとり込めば良いのではないか。

事務局) 4頁の後ぐらいに全体の背景ということで出したい。

花澤) 本文にもこの資料のキャッチフレーズ「人と会いたくなるまち」をいかすといい。ITによる情報化、人による情報化というコンセプトより良いと思う。せっかく考えた良いキャッチフレーズが消えている。

会長) 基本的考え方だから全体がうまくわかるようなものの方が良いかもしれない。最初からイメージがすんなり入るようにするために早い位置に図を位置付けるのが良いかもしれない。

事務局) 絵とキーワードをうまく再構成し、作成しなおしたい。

会長) 絵のタイトルで推進の意義・目的、全体がわかるようになっているので細切れにするより、全体を掲載する方が良いかもしれない。

事務局) 大きくとらえて、ひとくくりにまとめたい。

会長) この図をうまく有効活用して最初にし、後ろに背景を入れる。そういう位置付けの方がわかりやすい。

5頁の基本スタンス、基盤の考え方、推進体制アクションについては説明なのでこういった位置付けで良いのか。全体構成を修正し、2頁から3頁で図を入れ見栄えを良くし、背景はその後ろ、一番後ろでも良いかもしれない。以上のように組み立てなおしてほしい。では個別の部分に関しては、いかがですか。

花澤) 言葉に関してですが、バリアフリーという言葉は、アクセスはあるがそこに壁があって情報入手できないというのがバリアフリーであると思う。どちらかという今まではアクセスの手段すらないという状況が正確な言い方ではないかと思う。ここでは、情報が広く共有できるようになったという表現の方が良いのではないか。

会長) たしかにバリアフリーという言葉が最初にでてくると変かもしれない。順序を入れ替えれば良いということか。

事務局) デバインドが発生する一方で、社会参加ができにくかった人達がITを利用し社会参加が促されていく、ということをここでは表現したい。

花澤) 趣旨は良く理解できるので、言葉使いの問題だけである。

会長) 情報の流通とか共有化が非常に容易になったという意味合い。内容そのままタイトルだけ変えればどうか。そのような言葉に置き換えればバリアフリーの問題もこの中に含まれると思うが。

岡田) 順番を変えるなら(3)が最初で(1)が最後というのが順序としてはわか

りやすいのでは。

会長) (1)と(2)の内容は同じようにも思えるが。

花澤) (1)は時空間を超えて情報を新たに入手する手段が一般の人にまで広がったということで、(2)は自分が情報発信する手段が身近になったということで、コンセプトとしては2つ分けて説明した方が良いのでは。むしろ(1)と(3)の区別が分かりづらいのではないか。(3)は入手した情報だけでなく、それを活かせる環境ができたという点が重要であると思う。

会長) (1)のタイトルを変更すれば意外とおさまるかもしれない。

岡田) 文言の部分で(2)の最後の「ものが言えるようになりまして」という表現はあまり良くない。「発言が誰でも容易にできるようになった」はどうか。

会長) そうですね。もう少し良い表現をお願いします。

齋藤) 基本的考え方というのは最終的にできあがる計画の中に、そのまま、もり込んでいくのか、それとも市民の方との議論の材料にしておいて、書き直していくというものか。

事務局) 住民の議論の題材にし、有意義な意見が得られたら審議会で検討し、修正するという考えである。

齋藤) 色々議論はあったが、「情報バリアフリー革命」とか太い活字は造語なので、たたき台にするならば議論を引き出すためにわかりやすい言葉を使用すべきだと思う。それと、最後にできあがるのは基本計画か、それとも情報化計画か。

事務局) 基本計画である。

齋藤) 1頁を見ると基本がないので、ミスリードしているきらいがある。また難しい表現が多すぎる。「付加価値を創造することが可能となりました」というのも難しい表現である。活字ばかりだとあきるのでイラストを増やすと良いのでは。

会長) 審議会として基本計画を12月ぐらいに、11月のシンポジウムの後、審議会として中間答申を出すために、できるだけ意見がでやすいようにしたい。審議会としてこういう形になったから、中身を変えないというイメージで見られると意見も出てこない。12月の答申のところでは審議会スタイルの文章にするが、まずはヒアリングのためにも、わかりやすいたたき台という形が望ましいかもしれない。

では、2頁はいかがか。人と人との出会いの箇所と3頁目、4頁目をひとつにして、図を挿入するなど編集しながら、わかりやすい説明を加える必要がある。ここで重要なのは人と人との出会い・対話、ITによる情報化、ますます人と人とのコミュニケーションが重要になると思うという表現である。2頁目のe-Japan戦略に関しては、こういう国の計画があるということ为背景のところでもうまく扱えれば良いのではないか。

事務局) はい。

- 会長) 3頁の他の計画との整合性については、基本計画とはどういうものかということと他の計画との整合性という相対的な位置付けを整理しており、特に問題は無いと思う。
次に4頁の一番下のレイアウトはこれで良いか。5頁の基本スタンスのタイトルはこれで良いか。
- 齋藤) 4.についてはスタンスという表現がわかりづらい。また、デジタルデバイドもわかりづらいと思う。たたき台として提出するときは、行政側がリードし議論を引き出さなければならぬため、わかりやすい表現にする必要がある。不満を持って帰られると一番まずい。
- 会長) どういう表現にかえるか。日本語に直すか、何か良い言葉はあるか。
これ以外に何か欠けているものはないか。
- 岡田) 並びの問題であるが、「デジタルデバイドに配慮した」となるのか。最後も「行財政改革のスピードをおとさないような」にしてはどうか。
- 会長) 岡田委員の意見だと、「配慮」という言葉に横並びで統一した方が良いということか。みな同じグレードなので言葉を統一したほうが良い。
- 事務局) 再考したい。
- 会長) これは、基本姿勢なので何か抜けていると困るが他に何かあるか。
- 花澤) 費用対効果はいれても良いのではないかと。何でもやるというのではなく効果が大きいものは戦略的に取り組むといった考えを提示しても良いのではないかと。
- 会長) 行財政改革だけではなくて、全体像を見て経済性、産業性が見えてくれば戦略的にやっているというのが見えてくる。事業者のヒアリングもあるので戦略性が見えてくると相当イメージが良いと思う。下から2番目にそういう項目をいれるのが良いのではないかと。
- 花澤) 情報化の必要性をあまり感じていない人はこのような議論に入ると、そんなことに税金を用いて良いのかという議論から入る可能性がある。そうではなくきちんとそういったことも考慮しているというスタンスを示した方が良い。実益のあること、大義名分化、効果があるようにすることを戦略的に取り組んでいる姿勢を示すのが良いと思う。
- 事務局) そのあたりの評価、見直しをあわせて、新たな視点として項目を付け加えたい。
- 会長) 実際に市民から意見も出てくるかもしれないため、戦略性を項目にいれることも必要であろう。6頁、基盤整備の考え方について何かあるか。
- 花澤) 最後の地域人材の活用が情報通信基盤整備というタイトルからすると、そぐわないのではないかと。むしろ、何をやるかという文脈の中で出てくると思われるので、3.の地域経済の情報化のような、アプリケーションに組み込むほうが望ましいのではないかと。
- 会長) 基盤はハードに近いイメージであるが、人も一つの基盤という見方は、今ま

でとはちがう位置付けで面白いと思う。

岡田) 基盤整備で地域の人材育成を活用していくということを本来表現したかったのだろうが、「創発社会が創出できる仕組みを計画に反映」となっているので箱の中身がずれているのではないか。

事務局) 基盤の部分と地域資源が混乱した考え方になっているかもしれない。基盤と資源を整理し考えなおしたい。

会長) ITの問題は基盤的に考えればソリューション的、アプリケーション的な問題があるが、結局は人の連携によってなされる。ファイバーなのかCATVなのか無線なのか、何かやるにしても、人が介在してネットワークに関する議論が始まる。その連携ができる人材が必要である。インフラ、ソリューション、アプリケーション、コンテンツは人が介在してIT全体が動くという環境にもあるので、基盤の中に位置付けるのは面白いかもしれない。

事務局) 3も地域より人材に近い。基盤といっても我々が整備できるものではなく地域でどうするかということなので、全体に併せた方が良くかもしれない。

会長) 多様なメディアの活用と人材をうまくマージするということが。

事務局) 二つを基盤といってしまうと、上二つがどちらかという行政側で整備していくものであって、ハードの基盤に近い。下二つは地域の資源はハードといえばハードなのですが、その上でアプリケーション等も当然あるので、人材の部分もあるが、くくりとしては少し違うと思う。

会長) 「多様なメディア」は西東京市の特徴と言える部分が多くある。高速インターネット環境や無線の環境。多摩の防災無線に関しても無線の環境の特色として活用すれば良い。

「地域人材の活用」は、団体、人材の連携は非常に重要であるといったところなので、地域の人的資源のことだけではなく、団体のことにも触れた方が良い。人と人とのコミュニケーションが大事だということに結びつくと思う。西東京市の人的な連携が強化されれば情報化と大いに関係するという意味がここに出ているのではないかと思う。

このまま残しておき、色々な人の意見を聞くのが良い。説明を要する部分かもしれないので、基盤整備についてはこのままにしておき意見が出てきたらまとめることとしたい。最後7頁についてはどうか。

岡田) 三位一体の部分は、三者連携ではないか。

会長) 三者連携ですね。生活圏を視野に入れた広域的連携という表現と、多摩地域との関係はどのようなものか。

事務局) 事務局のイメージとしては多摩5市が連携している事業があるのでそれをイメージしている。5市の若手職員が共通のポータルサイト立ち上げの準備をしている。

会長) タイトルはこれでよいか。アクションという表現は再考してみてもいいか。

事務局) 市の発行する文書類にもカタカナ語が多いと指摘を受けたばかりであるので

見直してみる。

会長) 西東京市は高齢者率が高いので配慮した方が良い。

齋藤) 推進の体制と方向性ぐらいで良いと思う。

会長) 全体的に、今まで議論した内容で、基本的考え方の案として問題ないか。ヒアリング等を行うときは、審議会としての案ということになるのか。

事務局) 審議会としての案にしたい。

会長) 他の計画もこういうスタイルで行っているのか。

事務局) はい、審議会主催ということで、審議会(案)としているのが多い。

会長) 後は、全体がわかるように目次を入れておいて欲しい。また全体的に図を使用し、わかりやすくしてほしい。

事務局) このテーマを 10 月 1 日の市報で住民に知らせるということで、仮原稿を作成する。このまま掲載するのではなく目次的にテーマを整理しまとめ、詳細はホームページをとという形にしたい。早急にまとめる必要があるので委員の方には後日メールで報告する。

会長) 市報のサイズに合わせてうまくやってもらえれば良い。

ワークショップと事業者ヒアリングの実施は他の審議会でも行っているように、審議会主催で行う。出された意見は審議会の中で検討するようにする。日程は、ワークショップ 2 回、事業者ヒアリングがあるが、審議会主催なので審議会から出ていただく。矢内氏が 2 回対応するということが良いのか。

事務局) まだ、検討中であり正式な返事はないが、事業者ヒアリングについては矢内氏から了解を得ている。

会長) 8 回あるが大丈夫か。

事務局) 具体的な話まで行っていない。

会長) 市民会議の 2 回は会長代理の矢内氏に行っていたが、事業者ヒアリングは実務的な感じがするので事務方でやっても良いのではないか。

審議会委員がいないと審議会主催のヒアリングにならないのか。全てというのは大変なので矢内氏の負担も考慮した上で矢内氏と相談してほしい。

シンポジウムについては、基調講演は矢内氏、実態調査の報告は日本総研が行い抱き合せで基調講演とし、パネルディスカッションは私が審議会代表で出席する。他に審議会として対応する部分はあるか。

事務局) シンポジウムは 11 月の審議会という位置付けで開催するので委員の方にも是非参加していただきたい。

会長) 土曜日であるが、審議会も兼ねているため、多くの委員に出席願いたい。本日欠席の委員から何か意見はあったのか。

事務局) 欠席のメールのみで特に意見等はない。

会長) 庁内ヒアリングのまとめに関する資料については、どのように対処すべきか。

事務局) その他のところで先般庁内各部のヒアリングを審議会の方で行ったので、議論というより、本日は資料として提出したい。次回 10 月に全体を通して、

欠けている部分等を議論したい。

全体的に見て、温度差はあるが各部課一応課題は認識している状況であり、問題はそれをどのように整理して、串刺しにしてまとめるかということである。今回の計画を推進していくものが重要になってくるのかと思う。

会長) 精力的に各部の部長なり次長なり色々説明され、有効的なディスカッションであったため、審議会として今後参考にしながら審議を進めて行くという資料だと思う。

事務局) 構成としては、各部ごとの現状と方向性を報告したものと、審議会からのアドバイスという構成である。再度項目を具体的に整理し、今後の基本的考え方に活用していく際の参考資料にしたい。

来年度の予算要求の時期が近づいているので、その要求に向けて審議会の方から提言をもらいたい。その際の事業をピックアップしていく上での参考資料として考えている。

スケジュールとしては、たたき台原案を来月の審議会で提示し、12月の審議会で最終決定し、市へ提案したい。

会長) ここに記載されている委員からのアドバイス等に関する意見、修正は、メール等で事務局に通知してほしい。

扱いとしては、各部署に全体がわかる形で何か資料として配布されているのか。

事務局) 資料を全体的にまとめたものを各部署に配布する。

会長) 全貌がよくわかる資料なので、是非市長さんにも提出してはどうか。

事務局) 次回は10月23日水曜日 9時半から、場所は今回と同じ5階 501号室で予定している。

以上